



巨摩高だより 第1号

平成十四年九月発行

八十一年のエネルギーを受け継ぐ新しい巨摩高校
校長 原 邦夫



来る九月二十一日に巨摩高校は創立八十周年を迎えます。大正十一年(1922年)に山梨県立第三高等女学校として設立を認可されたこの日を創立記念の日としてきました。以降、巨摩高等女学校、巨摩高等学校と改称し、昭和二十五年に高等学校再編成により男女共学の巨摩高等学校になり、現在に至るまで、峡西南地域の教育の拠点校として発展を続けて参りました。創立以来二万二千四百余の卒業生が社会の各方面で活躍しているのは皆様ご承知のとおりです。創立八十周年記念式典をはじめとする記念事業は来年の九月二十日に実施することにし、準備を進めております。本年三

月にゆったりと広がる前庭にバランス良く、建築美を誇り、凛と立つ新しい校舎が完成し、教育環境は一新しました。この喜びを在校生及び教職員はソフト面での充実に転ずることを確認しあい、『真理を愛して、文化を尊び、高いコミュニケーション能力を備えた、新しい時代の主体的に生きる人間の育成』の教育目標を掲げ、新しい巨摩高校を創ることに着手したところであります。



生徒たちは勉学(真理)に、高い入部率で活躍する部活動等(文化)に果敢に挑んでおり、様々な機会や場面で、多彩な自分を思いきって表現しています。これらは若さの特権であると同時に、本校が八十年にわたって蓄

えてきた伝統と歴史のエネルギーが在校生の中に脈々と受け継がれていることを感じさせてくれます。

一足早く高校生活 実感 高校見学会に 五百名が参加

地元の中学生や保護者の方々に本校の特徴、教育内容等を理解してもらう目的で実施したもので、八月三十日(金)の午後三時から地元中学生四百五十一名、父母約五十名が参加して行われた。体育館においての学校説明会では、学校紹介ビデオの上映と巨摩高校一年生二名による先輩の立場からの話があり、また昨年度から実施されてきた体験授業では、今年度は理科の授業も実施され、英語・数学とともに大半の生徒がいずれかに参加し、好評であった。最後に行われたのはクラブ見学であり、本校で実施している文化局・体育局のクラブ計十七のどれかを、先輩たちの誘導でそれぞれが見学に行き、説明を受けたり、実際に練習に参加したりした。

参加した中学生の話を聞いてみると、「巨摩高のことをいろいろ知ることができてよかった。」

「体験授業がとても楽しかった。」先輩達がとても上手だった。優しかった。「普通高校だからもっと勉強、勉強と押しつけられる学校かと思っていたのに、部活を見学して考えが変わりました。」「楽しそうな学校という印象です。」などの感想が多く、見学会を通して本校をよりよく理解できたようであった。



全国の舞台目指してクラブ活動 (生徒会活動)

学校の活性化をすすめるものひとつとして、クラブ活動が盛り上がるという意味において、クラブ活動は大切なものである。活動の停滞が全県・全国的にも問題となっておりますが、本校の十五の体育局は活発に活動をしており、各種大会でも上位進出を果たしております。

ここ数年を振り返ってみますと、平成十二年度のインターハイ(全国高校総体)で中沢和美さん(白根巨摩中出、現山梨大)がやり投げで優勝し、山梨県で四十八年ぶりという成績を残しています。また昨年のインターハイでは、弓道部女子が団体で6位に入賞し、全国という舞台での活躍がみられます。その他、インターハイ・国体で活躍しているホッケー部、県内大会でベスト8進出を果たしている野球部・バレー部女子・テニス部と多くの部の活躍が見られます。

本校周辺の地域はスポーツが盛んであるだけに、これからもさらなる飛躍を目指して活動に力を入れていきます。

今夏、全国高校総体の結果

- 弓道部男子 決勝トーナメント 10回戦
- 10-16 (島根)
- ホッケー部 1回戦
- 0-0 (森高校)
- PS1 (大分) 3で敗退



(試合前のかけ声「ファイト」)



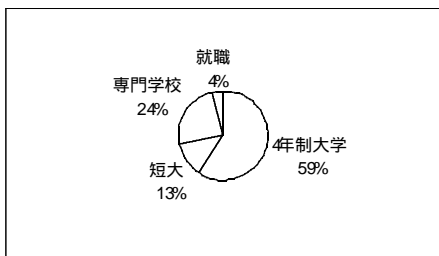
新時代における 進路指導

進路指導部より

大学では、少子化時代を迎えて（特に私立）、生き残りを賭けた、さまざまな動きが見られるようになり、かつての受験地図も今や大きく塗り替えられようとしている。受験生とつても、合格を勝ち取るための作戦、勉強方法、にも多種多様な可能性が開かれてきた。本校では現三年生二百七十名の内、約六十名が四年制大学への進学を希望し、約三十五名ほどが短大への進学を希望している。この数字はここ数年一定している。これらの者がみな希望通りの進路を決定していくためには並々ならぬ受験勉強が必要とされることは、過去の卒業生達の受験をずっと見守ってきた進路指導部ではなくとも、全ての教員が承知しているところである。現三年生はもちろん、二年生、一年生に対しても、この進学受験にうち勝つための努力を（生徒とともに）これからも続けて行きたい。

あった。現三年生には是非とも、この先輩達の頑張りを受け継ぐべく、ラスト・スパートの努力をしてほしいものだと願わずにはいられない。この夏休みも全学年で特別講座や校内課外に取り組み、たくさんの参加生徒が実力アップをはかってきた。予備校の講師による特別講座は大学進学をにらんだ高レベルのものである。校内課外では本校の先生方が授業の補習に重点をおいて実施した。学校週5日制による学力低下が、世間的にも問題とされているが、要は個々のやる気と集中力とそれを支える学校側の熱意とでどのようにも出来る性格のものではないかろうか。

★現三年生の進路希望
(四月現在)



平成十三年度
卒業生の合格国公立大学
【理系】

- 山梨大学・工
- 宇都宮大・工
- 東京農工大
- 金沢大・工
- 富山大・工
- 信州大・理
- 愛媛大・工
- 徳島大・工
- 山口大・工
- 県立看護大
- 【文系】
- 山梨大・教
- 都留文科大
- 茨城大・教
- 茨城大・人文
- 福島大・教

深まる国際交流 国際交流部より

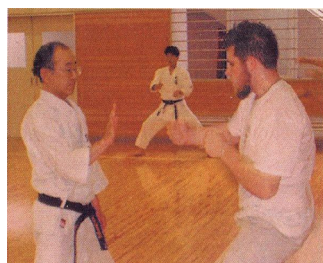
本校は、アメリカのウス・ダコタ州のスターズ高校及びアイオワ州のセントラル・キャンパス高校と姉妹校の締結をして以来、毎年交流を続けています。六月にはセントラル・キャンパス高校が、そして三月にはスターズ高校が来校し、八月下旬から九月上旬には本校から姉妹校を訪問します。

今年もセントラル・キャンパス高校が六月十四日～十八日の期間、生徒宅へホームステイをしながら授業に参加し、また、茶道や空手の手ほどきも受けました。男子十

女子三名の訪問でした。が、全員が日本語を選択履修しており、日本に対する興味や関心が非常に高く、短い間ではありましたが充実した心に残る交流ができました。



(茶道を体験する米高校生)



教育講演会開催

渉外部より
七月二十日(土)午後二時からPTA教育講演会が本校文化創造館で開催されました。講師に

は山梨医科大学に勤務され、教育カウンセラーとしても活躍の精神科医、神庭靖子先生をお招きしました。

先生は思春期における自己確立の二つの柱として、

社会的な自己を確立すること、どんな進路を選ぶ職業に就くのか。男である自分、女である自分の確立。どんな相手を選び、どんな家庭を築いていくのか。をあげ、この期待に親としてどう関わっていくのかを事例を示しながら話されました。

「子供は別人格」という認識を持ち、親子の一番いい距離をつくるのが一番要で、親離れ、子離れを上手にやることの大切さがよくわかりました。

講演後、何人かのお父さんやお母さんから質問があり、関心の深さが示されました。

【編集後記】

八月二十六日から学校が始まりましたが、秋の気配など全く感じられず、連日三十五度近い暑さの中、九月を迎えました。この猛暑に負けず、三年生は進路決定、一、二年生は新人大会など目標に向かって打ち込んでいる姿はまさに青春そのものであります。

十月七日から、二年生は韓国への修学旅行を予定しています。昨年は、教科書問題と同時多発

テロの影響で計画変更を余儀なくされました。今年も、日韓共催W杯サッカーで友好ムードは高まっていますが、九月十一日が過ぎるまでは、不安は消えません。

お願い
平成十五年九月二十日に、八十周年記念式典が本校において行われます。現在、記念誌作成に取り組んでいます。作成にあたって「古き、良き学生時代」の写真や資料を探しています。提供していただける方は、本校までご連絡ください。

下記のサイトにてさらに詳しい学校紹介がご覧いただけます。

巨摩高ホームページ <http://www.ko.kai.ed.jp/>
e-mail: koma@ko.kai.ed.jp

山梨県立巨摩高等学校 TEL:055-282-1163
(代)